

# 群と位相（横田一郎）

使用しているのは第 17 版第 17 刷.

# 射影空間と古典群の定義

## ■記号等

- $\mathfrak{J}(n, K), \mathfrak{J}_+(n, K)$ . (p.51)
- $KP(n-1) = \{ X \in M(n, K) \mid X^* = X, X^2 = X, \text{Tr}(X) = 1 \}$ . (p.58)  
補題 27 から  $X \in KP(n-1)$  は  $A \in G(n, K)$  によって  $X = AE_n A^*$  と表すことができる. これによって, 積を導入する. すなわち,  $X, Y \in KP(n-1)$  を  $A, B \in G(n, K)$  を用いて  $X = AE_n A^*, Y = BE_n B^*$  とした時,  $X$  と  $Y$  の積を  $(AB)E_n(AB)^*$  とする.
- $S_d = \{ (\xi, x) \in \mathbb{R} \times K \mid \xi(\xi-1) = |x|^2 \}$ . (p.58)

2

## 射影空間と古典群の位相

### ■記号等

- $D_a \in M(n, K)$  ( $a \in S_K^{n-1}$ ) :  $D_a a = -a$  ;  $(x, a) = 0$  ( $x \in K^n$ ) なら  $Dx = x$ . (p.123)

### 3

## 射影空間と古典群の胞体分割

### ■記号等

$$\bullet D_{(\kappa, \mathbf{a})} = (\delta_{ij} + (\kappa - 1)a_i \bar{a}_j)_{i,j=1,\dots,n} \in M(n, \mathbb{C}) ; \mathbf{a} \in S_{\mathbb{C}}^0, \mathbf{a} \in S_{\mathbb{C}}^{n-1}. \quad (\text{p.151})$$

■定理 30  $h: S_d \cup V_K^2 \rightarrow KP(2)$  は  $f: S_d \rightarrow KP(2)$ ,  $\varphi_2: V_K^2 \rightarrow KP(2)$  で構成される.  $f$  は  $S_d \rightarrow KP(1)$  の同相写像であり (定理 28 の証明),  $\varphi_2$  の制限は同相写像  $E_K^2 \rightarrow e^{2d} = KP(2) - KP(1)$  と,  $S_K^1 \rightarrow KP(1)$  (定理 29 の証明) である. 従って,  $h: S_d \cup V_K^2 \rightarrow KP(2)$  が全射であることは明らか. ここで,  $p, p' \in S_d \cup V_K^2$  に対し, 次の同値関係を定義する:

$$p \sim p' \Leftrightarrow p = p', \quad f(p) = \varphi_2(p'), \quad f(p') = \varphi_2(p).$$

$(\xi, z) \in S_d$ ,  $(x, y) \in S_K^1$  として,  $f(\xi, z) = \varphi_2(x, y)$  とおく. 実際に計算すれば, これは  $\nu_K(x, y) = (\xi, z)$  であることが分かる. すなわち, 上の同値関係は

$$p \sim p' \Leftrightarrow p = p', \quad p = \nu_K(p'), \quad p' = \nu_K(p).$$

この同値関係による等化集合は  $S_d \cup_\nu e^{2d}$  である. ところで, これは  $S_d$  の元を  $f$  で写したものと  $S_K^1$  の元を  $h$  で写したものが等しければ, それらの元を同一視しているので, 全単射  $\tilde{h}: S_d \cup_\nu e^{2d} \rightarrow KP(2)$  が誘導される.

### ■補題 112

準備のための写像

証明  $p_k: O(k) \ni A \mapsto Ae_k \in S^{k-1}$  は定理 15 の証明 (p.104) で与えられている.  $h_k: V^{k-1} \ni \mathbf{x} \mapsto (-2\mathbf{x}\sqrt{1-\|\mathbf{x}\|^2}, 2\|\mathbf{x}\|^2-1)$  は定理 27(p.136) で与えられた  $e^{k-1} = S^{k-1} - e^0 = S^{k-1} - e_k$  の特性写像で, 同相写像  $h_K: E^{k-1} \rightarrow e^{k-1} = S^{k-1} - e_k$  を誘導する.  $\varphi_k: V^{k-1} \ni \mathbf{x} \mapsto (x_i \bar{x}_j)_{1 \leq i, j \leq k}$  は定理 31(p.140) で与えられた  $e^{k-1}$  の特性写像で, 同相写像  $E^{k-1} \rightarrow e^{k-1}$  を誘導する.  $\square$

### ■定理 32

$O(n)$  の胞体分割

**証明**  $\mathbb{R}P(n-1)$  の胞体  $e^{k-1} = \mathbb{R}P(k-1) - \mathbb{R}P(k-2)$  (定理 31, p.140) は  $\mathbb{R}P(k-1)$  のうち,  $(n, n)$  成分が 0 で無いもの. 定理 25 の単射  $f: \mathbb{R}P(k-1) \ni X \mapsto E - 2X \in O(k)$  によって  $e^{k-1}$  を写せば,  $O(n)$  のうち  $(n, n)$  成分が 1 で無いものに含まれる. すなわち,  $e^{k-1} \subset O(k) - (k-1)$  である.  $\square$

### ■補題 127

$$(3) \quad \overline{e^3} = e^0 \cup e^3 = S_{\mathbb{H}}^0 = Sp(1)$$

**証明**  $\psi_1: V^3 \times V_{\mathbb{H}}^0 \ni (q, 0) \mapsto 1 + 2\sqrt{1-|q|^2}(q - \sqrt{1-|q|^2}) \in Sp(1)$  によって,  $\psi_1(V^3 \times V_{\mathbb{H}}^0) = \overline{e^3} = e^0 \cup e^3 \subset Sp(1) = S_{\mathbb{H}}^0$  である (補題 127(1)).  $a+b \in S_{\mathbb{H}}^0$  ( $a \in \mathbb{R}, b \in V^3$ ) とする.  $a=1$  なら  $a+b=1 \in \overline{e^3}$  なので,  $a \neq 1$  とする.  $q = b/\sqrt{2-2a}$  とおけば,  $a+b = \psi_1(q, 0) \in \overline{e^3}$  である. 従って,  $S_{\mathbb{H}}^0 \subset \overline{e^3}$ .  $\square$

四元数  $\mathbb{H}^3$  での外積.

**証明**  $\mathbf{x}, \mathbf{y} \in \mathbb{H}^3$  は  $\mathbb{H}$  上右線型独立であるとする.

$$a_1x_1 + a_2x_2 + a_3x_3 = 0, \quad a_1y_1 + a_2y_2 + a_3y_3 = 0$$

を満たす  $\mathbf{a} = (a_1, a_2, a_3) \neq (0, 0, 0) \in \mathbb{H}^3$  を見つけたい.

$\mathbf{x}$  の成分 2 つが 0 のとき.  $\mathbf{x} = (x_1, 0, 0)$  とする.  $y_2 = y_3 = 0$  なら  $\mathbf{x}$  と  $\mathbf{y}$  が線形従属となるので矛盾.  $y_2 = 0$  なら  $\mathbf{a} = (0, 1, 0)$  とする.  $y_3 = 0$  なら  $\mathbf{a} = (0, 0, 1)$  とする.  $y_2, y_3 \neq 0$  なら  $\mathbf{a} = (0, y_2^{-1}, -y_3^{-1})$  とする.

$\mathbf{x}$  の成分 1 つが 0 のとき.  $\mathbf{x} = (x_1, x_2, 0)$  とする.  $y_3 = 0$  なら  $\mathbf{a} = (0, 0, 1)$  とする.  $y_3 \neq 0$  なら  $a_1 = x_1^{-1}$ ,  $a_2 = -x_2^{-1}$ ,  $a_3 = (x_2^{-1}y_2 - x_1^{-1}y_1)y_3^{-1}$  とする.

$\mathbf{x}, \mathbf{y}$  共に成分が非零のとき.  $x_1x_3^{-1} - y_1y_3^{-1} = 0$  なら  $\mathbf{a} = (x_1^{-1}, 0, -x_3^{-1})$  とする.  $x_1x_3^{-1} - y_1y_3^{-1} \neq 0$  なら  $y_3y_1^{-1} - x_3x_1^{-1} \neq 0$  となるので,

$$\begin{aligned} a_1 &= a_2(y_2y_3^{-1} - x_2x_3^{-1})(x_1x_3^{-1} - y_1y_3^{-1})^{-1}, \\ a_3 &= a_2(x_2x_1^{-1} - y_2y_1^{-1})(y_3y_1^{-1} - x_3x_1^{-1})^{-1} \end{aligned}$$

とすればよい. 実際, これを変形して

$$\begin{aligned} (a_1x_1 + a_2x_2)x_3^{-1} &= (a_1y_1 + a_2y_2)y_3^{-1} \\ (a_2x_2 + a_3x_3)x_1^{-1} &= (a_2y_2 + a_3y_3)y_1^{-1} \end{aligned}$$

となる.  $a_1x_1 + a_2x_2 + a_3x_3 = s$ ,  $a_1y_1 + a_2y_2 + a_3y_3 = t$  とすれば,  $sx_3^{-1} = ty_3^{-1}$ ,  $sx_1^{-1} = ty_1^{-1}$  となる.  $s \neq 0$  とすれば  $t \neq 0$  となるので, 2 つ目の両辺の逆元を取って  $x_1s^{-1} = y_1t^{-1}$ . 1 つ目の式とかけて,  $x_1x_3^{-1} = y_1y_3^{-1}$  となり矛盾. 従って  $s = t = 0$ .  $\square$

$A \in Sp(k-1)$  の構成

**証明**  $\mathbf{x}, \mathbf{y} \in V_{\mathbb{H}}^{k-1}$  が (右  $\mathbb{H}$  加群の基底として) 一次独立であるとする.  $W = \mathbf{x}\mathbb{H} + \mathbf{y}\mathbb{H}$  とすればこれは階数 2 の自由右  $\mathbb{H}$  加群. まず,  $A\mathbf{x}, A\mathbf{y} \in \mathbb{H}^{k-1}$  の第 3  $\sim k-1$  成分が 0 となるような  $A \in Sp(k-1)$  が存在する. 実際,

$$A_{k-1} = \begin{pmatrix} \mathbf{a}_1^* \\ \vdots \\ \mathbf{a}_{k-1}^* \end{pmatrix}$$

とした際に,  $(\mathbf{a}_{k-1}, \mathbf{x}) = (\mathbf{a}_{k-1}, \mathbf{y}) = 0$  となるような  $\mathbf{a}_k \in \mathbb{H}$  を選ぶことができる.  $\{\mathbf{a}_1, \dots, \mathbf{a}_{k-1}\}$  が正規直交系となるように選べば  $A_{k-1} \in Sp(k-1)$  であり (補題 19, p.44),  $A_{k-1}\mathbf{x}, A_{k-1}\mathbf{y}$  は第  $k-1$  成分が 0 である. 従って,  $A_{k-1}\mathbf{x}, A_{k-1}\mathbf{y}$  は  $\mathbb{H}^{k-2}$  の元とみなすことができる. 上と同様にして,

$$A_{k-2} = \begin{pmatrix} A'_{k-2} & \\ & 1 \end{pmatrix} \quad (A'_{k-2} \in Sp(k-2))$$

によつて  $A_{k-2}A_{k-1}\mathbf{x}, A_{k-2}A_{k-1}\mathbf{y}$  は第  $k-2, k-1$  成分が 0 となる. これを繰り返せば,

$$A\mathbf{x} = \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ 0 \\ \vdots \\ 0 \end{pmatrix}, \quad A\mathbf{y} = \begin{pmatrix} y_1 \\ y_2 \\ 0 \\ \vdots \\ 0 \end{pmatrix}$$

となる  $A \in Sp(k-1)$  の存在が証明される.

$1 \leq r < k-1$  を,  $\mathbf{x}, \mathbf{y}$  の  $s+1 \sim k-1$  成分を取ったベクトルが線形従属となるような  $s$  のうち最大のものとする.  $\mathbf{z} = \mathbf{x}a + \mathbf{y}b$  の  $r+1 \sim k-1$  が全て 0 であるような  $a, b \in \mathbb{H}$  が存在する.  $W_r = \mathbf{z}\mathbb{H}$  とすればこれは階数 1 の  $W$  の部分加群となる. あとは,  $A\mathbf{z}$  が第 1 成分のみ非零であるように  $A$  を再構成すればよい.

$$A\mathbf{z} = \begin{pmatrix} z_1 = x_1a + y_1b \\ z_2 = x_2a + y_2b \\ 0 \\ \vdots \\ 0 \end{pmatrix}$$

となるが,  $z_1 = z_2 = 0$  なら  $\mathbf{z} = 0$  となり,  $\mathbf{x}, \mathbf{y}$  が線形従属となるので矛盾.  $z_2 = 0$  ならそれでよい.  $z_1 = 0$  なら

$$\begin{pmatrix} & 1 & & \\ 1 & & & \\ & & 1 & \\ & & & \ddots \\ & & & & 1 \end{pmatrix} A \in Sp(k-1)$$

を改めて  $A$  とすればよい.  $z_1, z_2 \neq 0$  なら

$$\begin{pmatrix} 1 & & & \\ sz_1^{-1} & -sz_2^{-1} & & \\ & & 1 & \\ & & & \ddots \\ & & & & 1 \end{pmatrix} A \in Sp(k-1), \quad s = \frac{1}{\sqrt{|z_1^{-1}|^2 + |z_2^{-1}|^2}}$$

を改めて  $A$  とすればよい.

$A\mathbf{x}, A\mathbf{y}$  が線形従属とすれば,  $\mathbf{x}, \mathbf{y}$  が線形従属となるので矛盾. 従って  $A\mathbf{x}, A\mathbf{y}$  は線形独立. □

## 4

# 射影空間と古典群の基本群と被覆空間

### ■補題 146

$p^{-1}(h(\tau))$  が離散空間

**証明** ファイバー空間の定義 (p.176) の直後に書かれているように,  $x \in X$  に対し,  $p^{-1}(x)$  と  $F$  は同相である. □

### ■補題 149

$u(I) \subset X$  がコンパクト

**証明**  $I$  は  $\mathbb{R}$  の有界閉集合なのでコンパクト. 連続な全射  $u: I \rightarrow u(I)$  に対し命題 59 を適用すればよい. □

$v_i$  が全単射

**証明** まず  $p^{-1}(x_{i+1}) \cap U(b_{i\lambda})$  が唯 1 点からなることを示す.  $p$  の制限によって  $U(b_{i\lambda})$  と  $U(x_i) \ni x_{i+1}$  は同相なので  $p^{-1}(x_{i+1}) \cap U(b_{i\lambda}) \neq \emptyset$ .  $b, b' \in p^{-1}(x_{i+1}) \cap U(b_{i\lambda})$  とする.  $p(b) = p(b')$  で,  $p$  は  $U(b_{i\lambda})$  上で単射なので  $b = b'$ . よって, 写像

$$v_i: p^{-1}(x_i) \ni b_{i\lambda} \mapsto p^{-1}(x_{i+1}) \cap U(b_{i\lambda}) \in p^{-1}(x_{i+1})$$

が得られる.

$x_{i+1} \in U(x_i)$  なので  $p^{-1}(x_{i+1}) \subset p^{-1}(U(x_i)) = \bigcup_{\lambda} U(b_{i\lambda})$ . したがって, 全ての  $b \in p^{-1}(x_{i+1})$  に対して  $b \in U(b_{i\lambda})$  となる  $\lambda$  が存在する. よって,  $v_i(b) = b$  となり,  $v_i$  は全射.

$U(b_{i\lambda}) \cap U(b_{i\mu}) = \emptyset$  なので  $v_i$  は単射. □

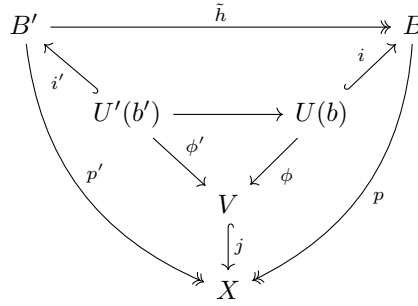
### ■命題 152

$(B', \tilde{h}, B)$  は被覆空間の性質 (3) を満たす

**証明**  $b \in B$ ,  $x = p(b) \in X$  とする.

$\tilde{h}^{-1}(b) = p'^{-1}(x)$  を示す.  $b' \in \tilde{h}^{-1}(b)$  とする.  $b = \tilde{h}(b')$  なので  $x = p(b) = p \circ \tilde{h}(b') = p'(b')$ . 従って  $b' \in p'^{-1}(x)$  なので  $\tilde{h}^{-1}(b) \subset p'^{-1}(x)$ . 逆に  $b' \in p'^{-1}(x)$  とする. 補題 150 より  $b = \tilde{h}(b')$  なので  $b' \in \tilde{h}^{-1}(b)$ . 従って  $p'^{-1}(x) \subset \tilde{h}^{-1}(b)$ .

$b' \in \tilde{h}^{-1}(b) = p'^{-1}(x)$  とする. 標準近傍  $V \ni x$ ,  $U(b) \ni b$ ,  $U'(b') \ni b'$  を取る.  $\tilde{h}$  の制限により  $U'(b') \simeq U(b)$  となることを示す.



標準近傍の性質より  $\phi, \phi'$  は同相で,  $p' \circ i' = j \circ \phi'$ ,  $p \circ i = j \circ \phi$  である. よって

$$p \circ i \circ \phi^{-1} \circ \phi' = j \circ \phi \circ \phi^{-1} \circ \phi' = j \circ \phi' = p' \circ i' = p \circ \tilde{h} \circ i'.$$

$p \circ i = j \circ \phi$  は単射なので

$$\phi^{-1} \circ \phi' = (p \circ i)^{-1} \circ p \circ i \circ \phi^{-1} \circ \phi' = (p \circ i)^{-1} \circ p \circ \tilde{h} \circ i' = i^{-1} \circ p^{-1} \circ p \circ \tilde{h} \circ i'.$$

したがって

$$i \circ \phi^{-1} \circ \phi' = p^{-1} \circ p \circ \tilde{h} \circ i' = \tilde{h} \circ i'.$$

さらに標準近傍の性質から

$$\tilde{h}^{-1}(U(b)) = p'^{-1}(V) = \bigcup_{b'_\lambda \in p'^{-1}(x)} U'(b'_\lambda) = \bigcup_{b'_\lambda \in \tilde{h}^{-1}(b)} U'(b'_\lambda).$$

□

## ■命題 155

$v_1, v_2, v_3$  の構成

**証明**  $v_1, v_2$  は  $\alpha_*, \beta_*$  の定義から存在する.  $b_0, b_\beta$  を結ぶ道  $v_2$  に対し,  $\alpha_*(b_0)$  を始点とし,  $pv_2$  を被覆する道を  $v_3$  とする.  $\alpha_*$  の定義から  $v_3(1) = \alpha_*(b_\beta)$ .  $pv_2 = pv_3$  なので,  $[pv_3] = \beta$ . □

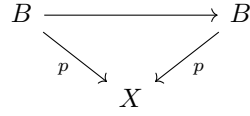
$$(v_1 \cdot v_3)(1) = (\alpha\beta)_*(b_0)$$

**証明**  $\alpha = [pv_1]$ ,  $\beta = [pv_3]$  なので  $\alpha \cdot \beta \in \pi_1(X, x_0)$  の代表元として  $p(v_1 \cdot v_3)$  を取る.  $(\alpha\beta)_*(b_0)$  は  $v_1 \cdot v_3$  の終点なので,  $(v_1 \cdot v_3)(1) = (\alpha\beta)_*(b_0)$ . □



$$(\alpha\beta)_* = \alpha_* \circ \beta_*$$

**証明**  $(\alpha\beta)_*(b_0) = \alpha_* \circ \beta_*(b_0)$  なので, 命題 152 を使うためには  $p \circ (\alpha\beta)_* = p \circ \alpha_* \circ \beta_*$  を示せばよい.



$\alpha_*$  の定義から,

$$p(\alpha_*(\beta_*(b))) = p(\beta_*(b)) = p(b) = p((\alpha\beta)_*(b)).$$

□

被覆写像  $p: B \rightarrow X$  は開写像

**証明**  $V$  を  $B$  の開集合とする.  $x \in p(V)$  を任意にとる.  $b \in p^{-1}(x) \cap V$  とする. 標準近傍  $U \ni x$ ,  $U(b) \ni b$  を取る.  $V \cap U(b)$  は  $U(b)$  の開集合であり,  $p$  は  $U(b)$  と  $U$  の同相写像なので,  $p(V \cap U(b))$  は  $U$  の開集合. 従って,  $p(V \cap U(b))$  は  $X$  の開集合.  $x \in p(V \cap U(b)) \subset p(V)$  なので,  $p(V)$  は開集合. □

# 付録

## ■命題 182

$$\ker \varphi = \{\pm E\}$$

**証明**  $A \in \ker \varphi$  とすれば, 任意の Hermite 行列  $X \in \mathfrak{J}(3, K)$  に対し  $AX = XA$  となる. ここで,

$$X = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 \end{pmatrix}$$

とすれば,

$$\begin{pmatrix} a_{11} & 0 & 0 \\ a_{21} & 0 & 0 \\ a_{31} & 0 & 0 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} a_{11} & a_{12} & a_{13} \\ 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 \end{pmatrix}.$$

よって  $a_{12} = a_{21} = a_{13} = a_{31} = 0$ .

$$X = \begin{pmatrix} 0 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 0 \end{pmatrix}$$

とすれば  $a_{23} = a_{32} = 0$ . 以上から,  $A$  は対角行列.

$$X = \begin{pmatrix} 0 & 1 & 0 \\ 1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 \end{pmatrix}$$

とすれば  $a_{11} = a_{22}$ .

$$X = \begin{pmatrix} 0 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & 0 \\ 1 & 0 & 0 \end{pmatrix}$$

とすれば  $a_{11} = a_{33}$ . よって,  $A = aE$  ( $|a|^2 = 1$ ) と表せる.

$K = \mathbb{R}$  なら  $a = \pm 1$ ,  $K = \mathbb{C}$  なら  $a = e^{i\theta}$ .

$K = \mathbb{H}$  の場合を考える.

$$X = \begin{pmatrix} 0 & i & 0 \\ -i & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 \end{pmatrix}$$

とすれば  $ai = ia$ .  $a = a_0 + a_1i + a_2j + a_3k$  ( $a_i \in \mathbb{R}$ ) とすれば  $a_2 = a_3 = 0$ .

$$X = \begin{pmatrix} 0 & j & 0 \\ -j & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 \end{pmatrix}$$

とすれば  $a_1 = a_3 = 0$ . 以上から  $a \in \mathbb{R}$  なので  $a = \pm 1$ . □

$$\mathrm{Tr} \alpha(E_i) = 1, \quad U E_i U^* = \alpha(E_i)$$

**証明**  $\alpha(E_i \circ E_i) = \alpha(E_i) \circ \alpha(E_i)$  なので  $\alpha(E_i)\alpha(E_i) = \alpha(E_i)$ .  $i \neq j$  ならば  $E_i E_j = 0$  なので  $\alpha(E_i)\alpha(E_j) = 0$ .  $E_1 + E_2 + E_3 = 1$  なので  $\alpha(E_1) + \alpha(E_2) + \alpha(E_3) = 1$ .

冪等行列  $\alpha(E_i)$  の固有ベクトル  $\mathbf{v}_i$  の張る部分空間  $W_i$  を考えれば<sup>\*1</sup>

$$\mathrm{Tr} \alpha(E_i) = \mathrm{rank} \alpha(E_i) = \dim W_i = 1.$$

さらに  $\mathbf{v}_i$  の固有値は 1.

$\mathbf{v}_2 \notin W_1$  なので  $\alpha(E_1)\mathbf{v}_2 = \mathbf{0}$ . よって  $\mathbf{v}_1^* \alpha(E_1) \mathbf{v}_2 = \mathbf{0}$ . したがって

$$0 = \mathbf{v}_2^* \alpha(E_1)^* \mathbf{v}_1 = \mathbf{v}_2^* \alpha(E_1) \mathbf{v}_1 = \mathbf{v}_2^* \mathbf{v}_1.$$

同様にして  $\mathbf{v}_i^* \mathbf{v}_j = \delta_{ij}$  となるので

$$U = (\mathbf{v}_1 \quad \mathbf{v}_2 \quad \mathbf{v}_3) \in G(3, K).$$

したがって,

$$U^* \alpha(E_1) U = \begin{pmatrix} \mathbf{v}_1^* \\ \mathbf{v}_2^* \\ \mathbf{v}_3^* \end{pmatrix} (\mathbf{v}_1 \quad \mathbf{0} \quad \mathbf{0}) = E_1.$$

よって,  $U E_i U^* = \alpha(E_i)$ . □

$E_i \circ F_i^x = 0$  および  $2E_i \circ F_j^x = F_j^x$  ( $i \neq j$ ) を満たす  $F_i^x \in \mathfrak{J}(3, K)$  は

$$F_1^x = \begin{pmatrix} 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & x \\ 0 & \bar{x} & 0 \end{pmatrix}, \quad F_2^x = \begin{pmatrix} 0 & 0 & \bar{x} \\ 0 & 0 & 0 \\ x & 0 & 0 \end{pmatrix}, \quad F_3^x = \begin{pmatrix} 0 & x & 0 \\ \bar{x} & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 \end{pmatrix}$$

のみ.

---

<sup>\*1</sup> 佐武線型代数 p.131–132